

II 学科概要

1. 看護学科の概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー：DP】

看護学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
2. 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3. 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
4. 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力
5. 科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
4. 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する
5. 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

看護学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
2. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
3. 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
4. 人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
5. 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
6. 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

2) 教育目標

【教育目的】

建学の精神、教育理念に基づき、看護学科は以下の教育目的を掲げています。

幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授する。

看護専門職として、将来にわたり、永続的に自己成長、自己研鑽を続けていくための資質や能力を養うことができるような教育を展開し、看護学学士課程としての学修成果を得た看護師を育成することを目指しています。

【教育目標—育成する人材像】

本学の教育理念および教育目的を具現化するため、以下に掲げる特性を備えた看護師を育成します。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意思を尊重できる。
2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係を形成できる。
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で看護実践ができる。
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる。
5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力で自己成長できる。

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

看護学は、「人間と健康」という人間存在の本質に深く取り組む学問です。本学科における看護学教育は、人間が生きること、人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人々の健康の保持・増進と健康障害を持つ人への生活を支援する専門職業人としての看護師を育成することを目指しています。

本学のカリキュラムは、ヒューマンケアを理念に看護を実践の科学として位置づける看護学の概念枠組みとして、「人間」「環境」「健康」「看護」の4つの基本概念からなる教科目で構成されています。各領域の中心的概念は、以下のとおりです。

「人間」：看護の対象である人の理解

(命の尊厳、人権擁護、多様な価値観、全人的理解)

「環境」：人の健康と環境との関係、環境と看護の関係

「健康」：看護の対象は各発達段階にいる人のあらゆる健康レベル

「看護」：すべての保健医療福祉システムにおける看護

看護学科では、開学時の2014年以降、2018年度、2019年度にカリキュラムを変更しています。2019年度入学生は2019年カリキュラム、2018年度入学生は2018年カリキュラム、2017年以前入学生は2014年カリキュラムに基づいて授業を行います。

(2) 教育課程の編成 (授業科目構成)

教育課程の編成は、看護の対象である「人間」を理解するために必要な知識、学生の人間的成長に必要な知識を学ぶ「基礎教育科目」、看護学に不可欠な保健医療福祉の基礎知識を学ぶ「専門基礎教育科目」、看護学の知識・技術を学ぶ「専門教育科目」の三領域で編成しています。

カリキュラムの各概念の間には相互関係が存在することを前提に、「基礎教育科目」と「専門基礎教育科目」「専門教育科目」の三領域に配置した各教科目の内容が、有機的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成し、各領域における授業科目間の授業内容は、関連性と一貫性を保つよう設定しています。

なお、教育課程編成には、基礎教育科目→専門基礎教育科目→専門教育科目において、講義内容が理解できるように、内容の順序性と連続性、関連性を重視し、教育科目の開講年次および前期、後期への配分についても、これらのことを十分に考慮して配置しています。

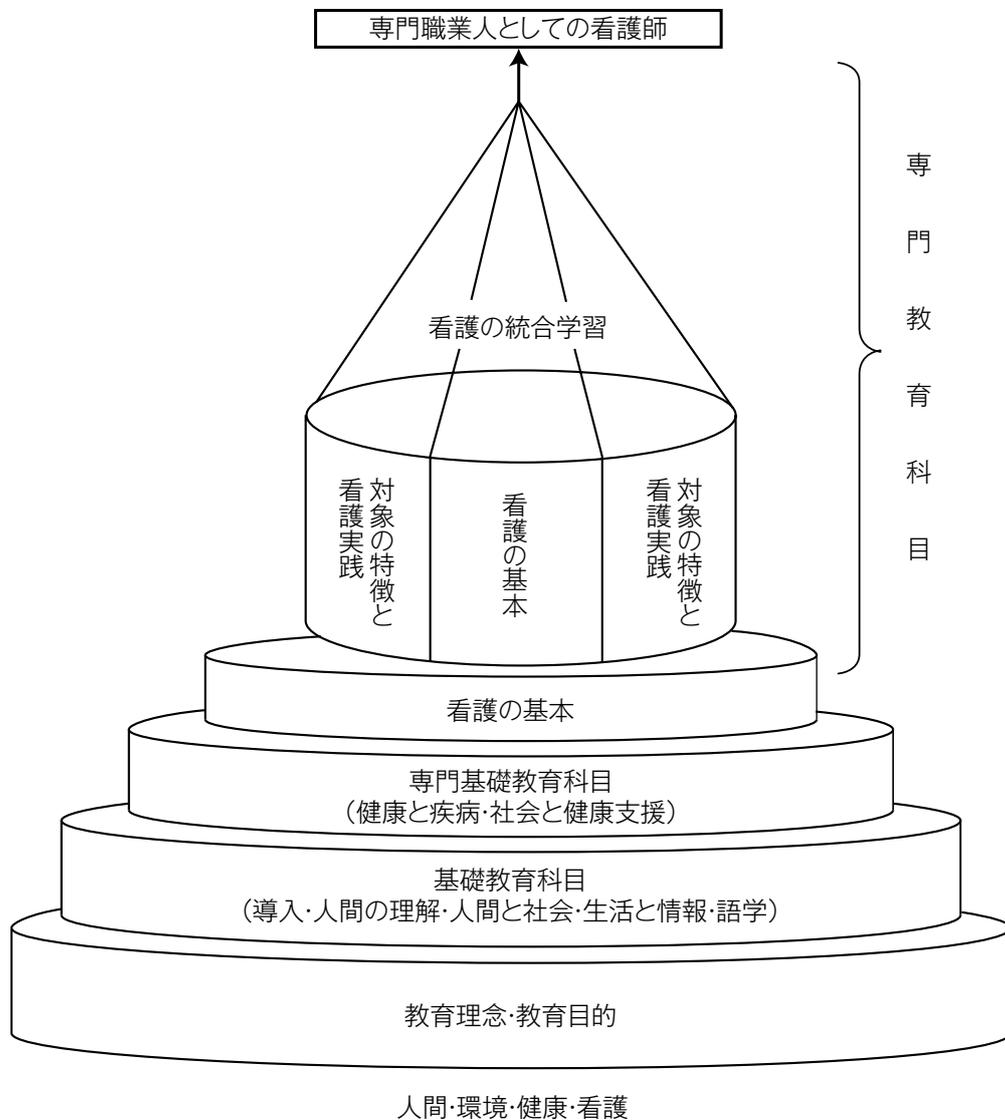


図 専門職養成に至る看護教育課程

(3) 教育課程の進行に関する基本的な考え方

① 楔形配置

教育課程の進行は、「基礎教育科目」をベースに「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」と学んでいきますが、相互に関連して学びを深めていくことを目的に楔形に配置しています。

看護学は、「人間と健康」を対象に研究する学問ですので、人間理解に必要な幅広い知性と豊かな感性を育て、学生自身の人間性を育てるための教科目は「基礎教育科目」として低学年に配置し、人間に関する学際的な学問領域の教科目を設定しています。

専門職業人を育成するための教科目は、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」に設定し、看護師として必要な専門的知識・技術はそれらの領域で学修します。学年が進むにしたがい、「専門教育科目」が増えていきますが、「基礎教育科目」と「専門教育科目」を関連付けて学修できるように、「専門教育科目」を1年次から配置し、「基礎教育科目」も可能な限り、楔形に配置しています。

② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を多く配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」を配置しているのは、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としているからです。

2年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる実習で看護の領域の広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

また、看護学における知識・技術を段階的に学ぶために、対象である人を「個人→集団」、健康レベルを「健康→健康障害」、看護の場を「施設→在宅」と段階的に向かうように編成しています。

③ 看護学実習

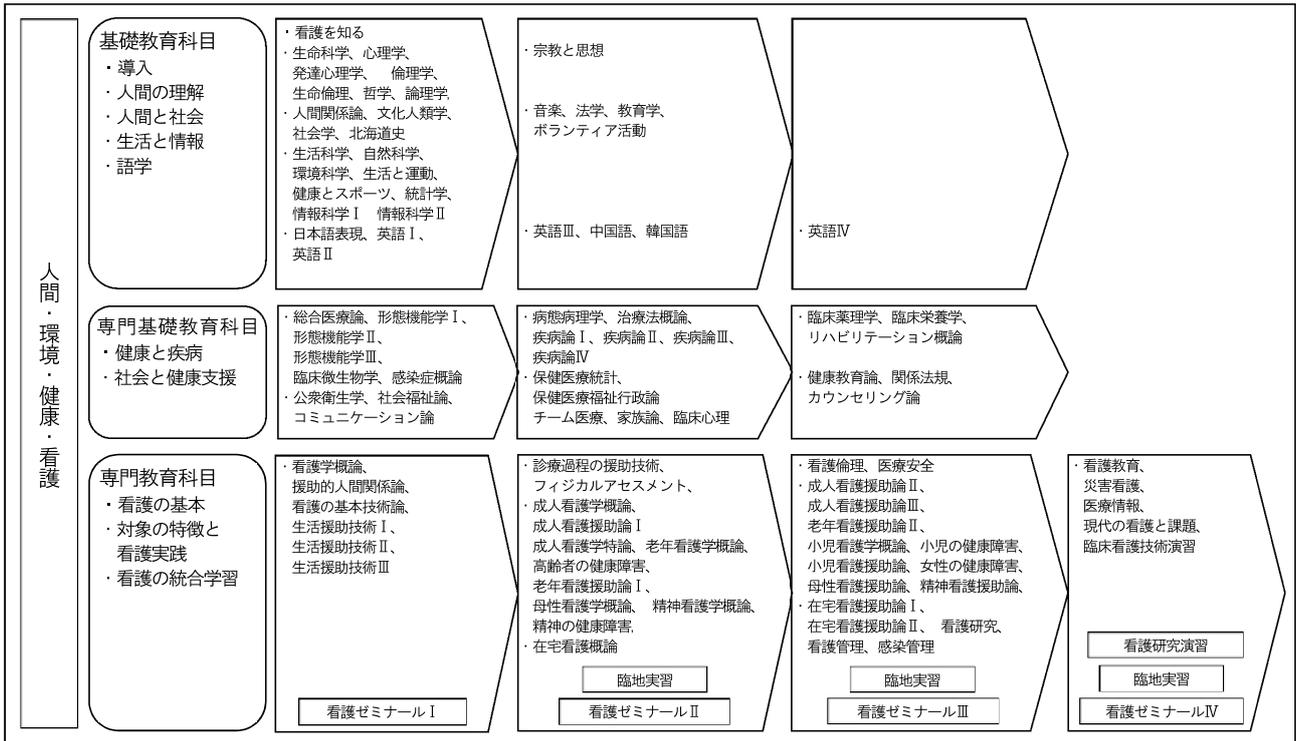
看護学は実践の科学であり、そのために必要な「看護学実習」には多くの時間を割いています。看護学実習は、既修の理論と知識、技術を体験的に学ぶ学修であり、また、看護学実習の体験から、看護の現象を意味付け、看護の知として学ぶ学修でもあります。いずれも当該領域の講義・演習を学修したのちに実習を配置しています。

④ 主体的学修

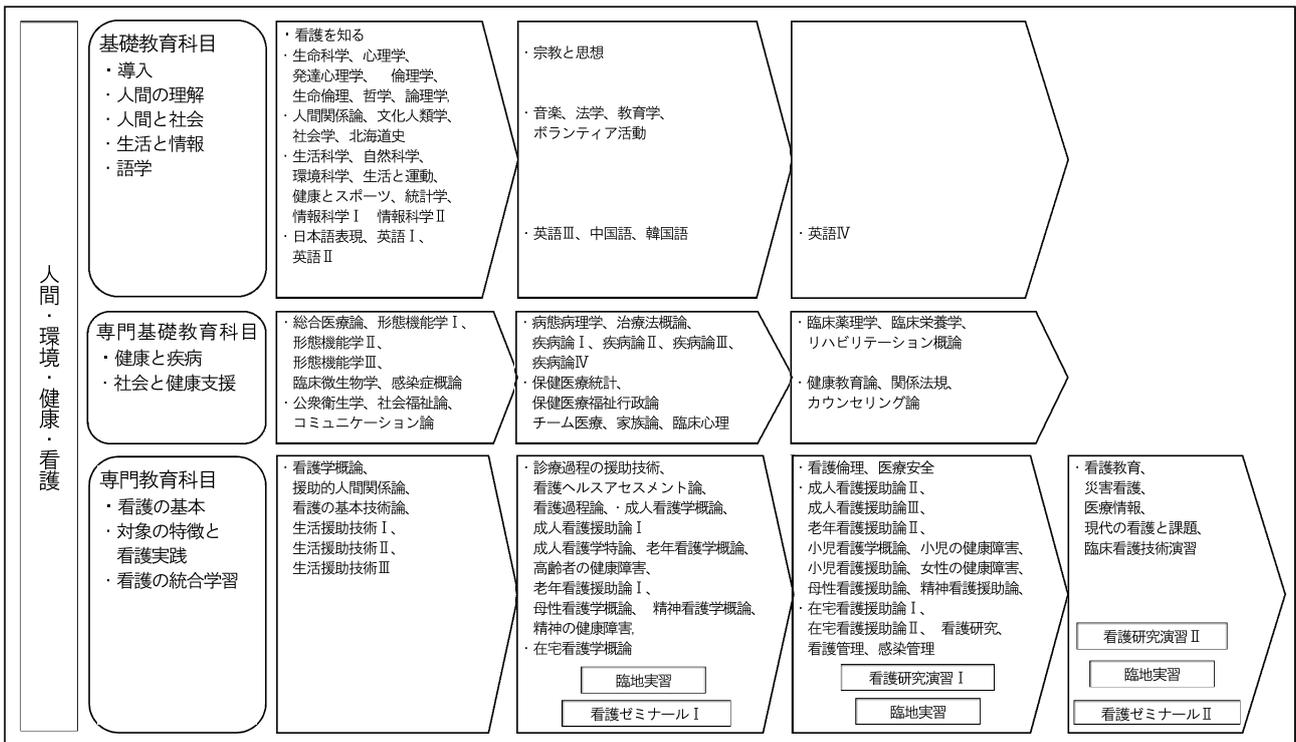
各学年に、学生が主体的となって、学修のまとめをする授業科目として看護ゼミナールを配置しています。教員の指導の下、学生が各学年の学修のまとめをとおして、学修の達成度と課題を明確にするとともに、学生相互で学修しあい、学生一人一人の成長を教員が丁寧に指導することも目的としています。

2014年カリキュラムおよび2018年カリキュラムの構成と年次進行は次の図のとおりです。2019年カリキュラムの構成と年次進行はカリキュラムマップ(30ページ)を参照してください。

〈カリキュラムの構成と年次進行（2014年カリキュラム）〉



〈カリキュラムの構成と年次進行（2018年カリキュラム）〉



Ⅲ 履修の概要

1. 履修方法

(1) 卒業要件総単位数

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	9 単位	24 単位	70 単位	103 単位
選択単位	16 単位以上	2 単位以上	3 単位以上	21 単位以上
小 計	25 単位以上	26 単位以上	73 単位以上	124 単位以上

(2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と自習からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業時間数〉

講義・演習	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
実験・実習・実技	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目に 講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

(3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価、授業の受講態度などが加味され、総合的に評価されます。

2. 履修科目

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

(1) 基礎教育科目

「導入」：「看護」に関連したテーマに沿って、主体的に学ぶプロセスを学びます。

「人間の理解」：人間の命の尊厳や多様な価値観を尊重する態度を学び医療人としての心構えを養います。

「人間と社会」：看護の対象である人間を社会や文化という視点から、人と人との関係性、社会の仕組みや制度、文化の影響など学びます。

「生活と情報」：看護の対象である人間を生活者としての視点から理解し、科学的なものの見方や考え方を学ぶとともに、論理科学的な学問思考を修得します。

「語学」：語学学修をとおして、他者との交流におけるコミュニケーションに必要なスキルを学びます。

(2) 専門基礎教育科目

「健康と疾病」：看護学を学ぶ上で必修の基礎的知識である人の健康と疾病の成り立ち、および回復の促進に関する概要を学びます。

「社会と健康支援」：病院、施設、地域における集団の健康について学び、保健医療福祉チームにおける看護師の役割の多様性と必要なスキルについて学びます。

(3) 専門教育科目

「看護の基本」：「人間」「環境」「健康」「看護」の4つの基本概念に関連付け、看護学の基礎となる知識、技術を中心として、看護実践の具体的な展開に要する基本的な考えを学修します。

「対象の特徴と看護実践」：看護の対象を成人、老年、小児、母性の各発達段階及び精神疾患に特徴付け、対象が必要とする看護援助を論理的思考に基づきアセスメントし、個別性のある看護援助を計画的に実践するプロセスを学びます。

「概論」で看護の対象の特徴、「援助論」で具体的な看護援助プロセスと技術を学び、理論と実践を統合した「臨地実習」で看護援助を計画的に実践し評価する過程を学びます。

「看護の統合学習」：病院施設において、看護援助の優先度や時間配分の必要性、メンバーシップ、リーダーシップ、リスクマネジメントや他職種との連携・協働をとおして、最終段階としての実習を学びます。

また、各学年の「看護ゼミナール」では、既修の知識と技術を学年ごとに統合し、学修目標の達成度を確認し、次学年の学修課題を明確にする時間として有効に活用します。主体的な学修を前提とします。

3. 卒業要件単位

卒業に必要な履修単位は以下の通りです。

科目区分		2014年カリキュラム		2018年カリキュラム 2019年カリキュラム	
		必修科目	選択科目	必修科目	選択科目
基礎教育科目	導入	1単位	－	1単位	－
	人間の理解	3単位	5単位から3単位以上	3単位	5単位から3単位以上
	人間と社会	－	8単位から6単位以上	－	8単位から6単位以上
	生活と情報	2単位	7単位から5単位以上	2単位	7単位から5単位以上
	語学	3単位	4単位から2単位以上	3単位	4単位から2単位以上
専門基礎教育科目	健康と疾病	16単位	－	16単位	－
	社会と健康支援	8単位	4単位から2単位以上	8単位	4単位から2単位以上
専門科目	看護の基本	14単位	－	15単位	－
	対象の特徴と看護実践	39単位	－	39単位	－
	看護の統合学習	17単位	5単位から3単位以上	16単位	4単位から3単位以上